2020年2月26日
建設通信新聞
（東京会場）

高層解体の最新工法
工期で低コスト

体工法「テコレップ・システム」の最新バージョンとして「テコレップーＬｉｇｈｔシ

、周辺環境に配
超高層ビルの解
環境配慮型の解

称。超高層建築物の最上部に閉鎖空間を構築することで、解体工事によって生じる粉じん、騒音など周辺環境への影響を最低限に抑えながら、上層部から解体とジャッキダウンによる降下を繰り返す。

最新バージョンとなるテコ

会社説明会などで使うため、60秒版も同時に制作した。60秒の動画は、同社ホームペー

ジとユーチューブ（https://youtu.be/HidBbHqKh1Q）に掲載している。

化した屋根フレームユニットにより、短期間で閉鎖空間を実現できるだけでなく、既存屋根を使用する場合との比較で屋根重量が約3分の1に減少。ジャッキダウンに使用する油圧ジャッキの数を大幅に減らすことが可能となる。

増

広がるワイドサる。
圏を始めとしたマンション開発な展開を図って

ト向け
Mを制作

三建設備工業

業は、リクルーで動画コマーシを制作し、車内ネージである」

もに
につい
放
央線
京浜
電鉄の各線で、博報堂が広告代理店。

動画は15秒のCMに加え、

総合資格が合格祝賀会

指導体制さらに強化
ストレート占有率65％

建設・不動産関連の資格スクール「総合資格学院」を運営する総合資格（東京都新宿区、岸隆司社長）は24日、2019年度の1級・2級建築士試験など各試験の合格祝賀会を首都圏などで開いた。

＝関連5、6、11、14面

東京地区では新宿区にある京王プラザホテルで修了証授与式・祝賀会が行われ、講師や合格者など約650人が参加して喜びを分かち合った＝写真。

冒頭、あいさつに立った岸学院長は「昨年の1級建築士試験では全国のストレート合格者に限れば、合格者のおよそ3分の2に当たる65％が当学院受講生という実績を示した。しかし、目標として掲げる合格者占有率8割以上には到達していない」と指摘し、さらに指導体制などを強化していく姿勢を示した。

赤羽一嘉国土交通相、石井啓一前国交相の祝電披露に続き、来賓の三井所清典日本建築士会連合会会長は「建築士などの資格取得は、基本的にスタートができたということに過ぎない。これからは仕事に携わる仲間や、地域社会の人々との連携を密にして、社会に貢献してほしい」とエールを送った。

近角真一東京建築士会会長は「建築士は安全安心を確保し、国民の生命を守る責務がある。現状に満足することなく、総合力を高めていってほしい」とした。児玉耕二東京都建築士事務所協会会長は「建築は竣工して終わりではない。50年、さらには100年存在することを視野において活動に期待する」とし、森暢郎日本建築家協会副会長は「失敗を恐れず、テクノロジーが進む時代にあっても、現地、現場に足を運び、判断力、直感力を培ってほしい」と合格者に要請した。

この後、修了者を代表して2級建築士に合格した北浦佑季さん、受講生を代表して1級建築士合格者の佐野裕衣さんに修了証が授与された。

また、総合資格学院の安島才雄常務執行役員は創業40周年を踏まえ「総合資格人材センターの役割を強化し、建築、建設に特化した、転職、就職支援事業を展開していくこと」を明らかにした。

株木建設は、3月2日に予定していた故株木雅浩氏（株木グループ元代表）のお別れの会について、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、中止とした。

ハキ利用システムを顧客に提供している。

今後、戸田建設グループとの相乗効果により、顧客にこれまで以上のサービスを提供すると同時に、地中熱エネルギー利用技術の

所属し、きょうまで勤務してきた。仕事をする上で大切にしている